



子ども図書研究室 講演会

子どもは絵本を読んでもらうことで、読み手から愛情を感じ、想像力が育まれ、本との結びつきが生まれます。そして、ことばの発達にも、絵本の読み聞かせは大きく影響します。

令和4年度の子ども図書研究室講演会では、長年ことばに関する研究をされてきた慶應義塾大学教授の今井むつみ先生を講師にお迎えします。

今回の講演では、「ことばを覚える仕組み」「ことばと考える力の関係」「絵本読みと読書の役割」を3本の柱に、子どものことばの力を育て、考える力を発達させるために、大人は何をしたらよいのか、特に絵本を読むことが小学校入学以降の読解力、問題解決力にどのように関わっているのかを、認知科学のエビデンスをもとに読み解いていただきます。

今年度は3年ぶりに集合形式で実施する予定です。また、後日動画配信を行いますので、そちらもぜひご視聴ください。

◆令和4年度子ども図書研究室講演会◆ 言葉の発達、思考の発達を助ける絵本読みと読書

【講師】今井 むつみ 氏

【日時】令和4年7月5日(火) 午後1時～3時

【会場】静岡県立中央図書館 講堂

【定員】50人(先着順 要事前申込)

【対象】15歳以上の方(中学生を除く)

【申込】ふじのくに電子申請サービス(左記による申請ができない場合は、来館や電話による申込可)

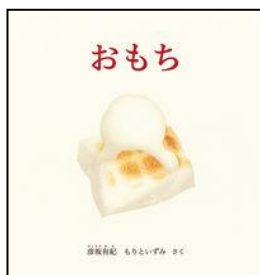
【電話】054-262-1246

※講演会の内容は、後日、当館YouTubeチャンネルで動画配信を行う【配信期間(予定)】7月26日(火) 午前10時から9月2日(金) 午後5時まで

当館では今井先生の著書『ことばの発達の謎を解く』『学びとは何か〈探究人〉になるために』等を所蔵しています。ぜひご利用ください。

新着資料から

絵本



『おもち』
彦坂有紀・もりといずみ/さく
福音館書店
2021年11月

七輪でおもちが焼かれていく様子を丁寧に描いている絵本。こんがりじりじりと焼かれるおもちの絵はとてもおいしそうで、思わず手がのびてしまいそうだ。最後は、いそべやき、きなこもちなどに変身して、さあ召し上がれ。絵本を読んだ後はおもちを食べたり、実際に焼いてみたくなるだろう。じっくりとおもちが焼かれていく様子は、「ちりちりちりり」「ぱりぱり ぷくり」などの擬態語にもよく表現されていて、おもちが焼けていく期待感を一層引き立てている。

【幼児から】(安田)

知識



『ノーサイド
勝敗の先にあるもの』

村上晃一/作

あかね書房

2021年11月

第100回全国高校ラグビー大会、花園で戦った東福岡と東海大

大阪仰星。東福岡は選手の自主性を重んじたプレーである一方、東海大大阪仰星は一人一人が責任をもって役割を果たす組織的な動きをするスタイル。互いにライバルとして認め合い尊敬し、勝ち負けにこだわる両チームに、同点・試合終了前のロスタイムでノーサイドの精神が生まれる。ノーサイドとは試合が終われば友達になるというラグビーの精神を表現する言葉である。信念と勝敗をかけて戦った末の幸せな引き分け試合を伝える作品。

【小学校高学年から】(上村)

「新刊サロン」のご案内

子ども図書研究室では、今年も「新刊サロン」を開催します。第1回は、前年度に引き続きYouTubeで配信いたします。今後の詳細については当館webサイトをご覧ください。



【配信期間（予定）】

令和4年6月24日（金）午前10時
～8月16日（火）

【視聴方法】

上記の二次元バーコードまたは当館ウェブサイトのURLをクリック

[（静岡県立中央図書館公式YouTubeチャンネル）](#)

※配信期間中、どなたでもご覧いただけます。

【今後の開催日（集合形式）】

8月17日（水）、10月19日（水）、12月17日（土）、令和5年2月15日（水）

※第2回～第5回については、後日、配信いたします。

【お問い合わせ】静岡県立中央図書館 資料課

電話：054-262-1243 FAX：054-264-4268

webmaster@tosyokan.pref.shizuoka.jp

子ども図書研究室をご利用ください！

子ども図書研究室では、児童書、絵本及び子どもの読書に関する参考図書を置いています。児童書・絵本の選択や内容、幼児期における本の与え方の研究などにご利用いただけます。また、各地域で子どもの読書活動を推進している公立図書館、学校図書館、地域の大人の皆さんの情報交換、交流の場としてもご利用いただけます。

■場 所：静岡県立中央図書館1階

■利用対象：15歳以上の大人（中学生を除く）

■利用時間：午前9時～午後5時（午後2時～5時は職員が在室（土日祝日を含む））。午前9時～午後2時は、2階総合案内カウンターへの申込みで開室いたします。）

■団体利用：選書会等の会場としてご利用いただけます。時間は火～金曜日（休日除く）の午前9時～午後5時ですが、それ以外も相談に応じます。※新型コロナウイルス拡大防止のため、利用人数の制限などを行っております。

■資料紹介：平成15年度以降に発行された児童書（コミック、参考書などは除く）を網羅的に収集しています。

■研究書・雑誌：子どもの本や子どもの読書に関する大人向けの図書や雑誌を収集しています。

新着資料から

知識

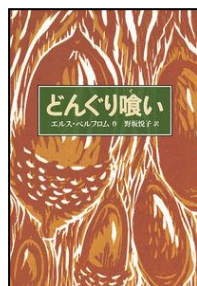


『そら 日本のことばずかん』
神永 暁／監修
講談社
2021年11月

日本古来の言葉には、その言葉や意味を聞いてもどのような情景を指すのか分からない場合や説明できないことがあります。この本では、「天気」や「季節」に関連する言葉を写真や絵画を用いて言葉の意味を視覚的に理解できるように紹介されています。

また、その言葉が使われた文学作品の一節を取り上げ、作品の解説や作家の紹介なども記載されています。この『そら』は、『日本のことばずかん』の1巻目となります。
【小学校高学年から】（三枝）

読み物



『どんぐり喰い』
エルス・ペルフロム／作
野坂悦子／訳 福音館書店
2021年11月

内戦終結後のスペインを舞台にした、主人公クロの8歳から16歳までの成長を描く物語。貧しさゆえに学校に通えなくなったクロは、豚やヤギの世話、修道院の手伝い、建築現場の仕事などをして家計を助ける。貧富の差は激しく、内戦後の社会の不条理が淡々と描かれるが、父の教えを真摯に受けとめ、家族を思いやり、明るく希望を持って生きるクロの生き様は逞しい。歌や踊り、家族で川を訪れる場面など、そこに生きる人々の息遣いや熱気が伝わってくる描写も魅力的な作品。
【中学生から】（山下）